

令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録

1 日時

令和6年2月16日（金） 10:45～12:00

2 場所

本校第一講義室

3 出席者

- (1) 学校運営協議会委員（6名） ※五十音順
- | | | | |
|----------------|--------------|---------|------|
| 株式会社一関LIXIL製作所 | 総務課長 | 川 堀 真 俊 | |
| 県南広域振興局 | 経営企画部 産業振興室長 | 菊 地 浩 記 | <欠席> |
| 岩手県立千厩高等技術専門校 | 校長 | 菅 原 利 之 | |
| 一関市教育委員会 | 学習指導専門員 | 鈴 木 秀 行 | |
| 株式会社マリアージュ | 代表取締役 | 鈴 木 泰 洋 | |
| 岩手県立千厩高等学校 | P T A会長 | 千 葉 栄 生 | <欠席> |
| 一関商工会議所千厩支所 | 支所長 | 千 葉 幸 男 | <欠席> |
| いわて平泉農業協同組合 | 千厩営農経済センター長 | 渡 邊 満 明 | <欠席> |
| 岩手県立千厩高等学校 | 校長 | 佐 藤 紀 文 | |
| 岩手県立千厩高等学校 | 副校長 | 平 田 勝 彦 | |
- (2) 学校関係者（1名）
- 事務長 佐 藤 齊

4 次第 ※司会：副校長

(1) 開会のことば（事務長）

(2) 校長挨拶（校長）

(3) 報告

令和5年度学校概況（副校長）

(4) 協議

ア 令和5年度学校評価

(ア) 結果と分析

〔川 堀〕学校評価の実施は、11/27～12/1のみの期間なのか。

〔副校長〕回答率を上げるために、生徒については各学年主任を通じてまだ回答していない場合は速やかに回答するように依頼した。保護者については、実施期間終了後に週単位で通信アプリ「マチコミ」により回答への協力を促した。

〔鈴木秀〕回答はFormsでの方法のみなのか。紙媒体での回答を実施しなかったのか。

〔副校長〕スマートフォン等により、QRコードまたはURLからアンケートフォームにアクセスして回答することとした。しかし、この回答方法により難しい場合は、保護者宛文書裏面の「質問事項」に記入し、生徒を通じて担任へ提出することとした。

〔鈴木秀〕保護者は、設問によっては判断材料がないために「わからない」と回答していることと思う。保護者へ学校の取組について機会を捉えて発信する必要がある。

(イ) 学校関係者評価

別紙『令和5年度 岩手県立千厩高等学校 学校評価報告書』参照

(ウ) 改善方策

**重点目標1 「わかる」授業の実践と個に応じた学びの実践により学習の定着を図る
スタディサプリの導入について**

〔川 堀〕新しいツールであるスタディサプリを導入したわけであるが、生徒の反応はどうか。

- [副校長] 先日、全体反省会が行われた。各学年の反省において、スタディサプリの活用方法の工夫・開発、さらなる活用などが挙げられた。導入初年度ということで、この一年間を経ての全体像が見えないのではないかと思う。
- [鈴木秀] 家庭学習と授業のどちらにスタディサプリを活用しているのか。
- [校長] 家庭学習での活用である。授業で学んだことをさらに深め、主体的に取り組む上でも効果的なツールである。
- [川 堀] 生徒の学校評価アンケートによると、1日の平均家庭学習時間について「まったくしない」と回答している生徒の割合が年々増加傾向にある。授業でもスタディサプリを活用し、家庭学習へ結び付けた方が良いのではないか。
- [鈴木泰] スタディサプリの内容を教えて欲しい。
- [校長] 大学受験対応、中学校の学び直し、資格取得対策などがあり充実している。授業形式の説明動画があり、繰り返し視聴できるので便利なツールである。学校として今年度スタートしたばかりであり、課題が多いと感じている。学年、教科、そして全職員で情報共有を図り改善していきたい。また、家庭学習時間が少ないわけであるが、スタディサプリを一つの方法として活用すれば、おのずと学習時間も増えてくると思う。

ICTの活用について

- [川 堀] 当社で今のところ成功しているのは、ICT を使わないと仕事ができない環境を強制的に作っていることである。その人は、ICT を学ばなければならなくなる。
- [鈴木秀] 小中学校では、意識してICTを活用する先生が増えている。ある先生が授業でICTを活用している場面を撮影し、他の先生方と情報共有を図ったりしている。

重点目標2 心身ともに健康でたくましい生徒の育成を図る

- [川 堀] 子供たちは他人にあまり注意されずに育っている。そのような子供がたちが社会人となり、仕事上で指摘されたことが上手くできないと、すぐに辞めてしまうのではないかと思う。
- [校長] 生徒への指導は、最初から結果を求めるのではなく、時間をかけながら繰り返し行うことが大切である。場合によっては、卒業後も引き続き地域、企業、上級学校においても、心の回復力（レジリエンス）は発展途上であることを理解しながら成長させていただければと思う。
- [鈴木秀] スクールカウンセラーの配置状況はどのようになっているのか。
- [副校長] 常駐ではないが、2名のカウンセラーが月に1回ずつ来校している。
- [校長] 生徒からの相談依頼が多く、それだけニーズが高まっている。

重点目標3 キャリア教育の推進と進路実現に向けた指導の充実を図る

インターンシップについて

- [川 堀] 産業技術科は教育課程の中にインターンシップを組み入れている。普通科の3分の1が就職志望者であれば、普通科も1年次からインターンシップを実施した方が良いのではないかと思う。
- [鈴木秀] 中学校では5日間のインターンシップを必ず実施することとしている。しかし、コロナ禍により、中学校で経験できなかった生徒が現在の高校に在籍している。企業に就職してからのミスマッチを防ぎ、忍耐力がない社会人にしないためにも、職場体験をすることにより様々な仕事があることを学んで欲しい。
- [校長] 本校の全体反省会でも話題となったが、普通科においてもインターンシップを実施することを検討している。

課外について

- [鈴木泰] 生徒全員に対しての一斉課外よりは、希望制の方が生徒個々にとって効率的に学力向上を図ることができるのではないかと考える。また、先程から話題になっているスタディサプリの活用も含め、課外の在り方を切り替える必要もあると思う。

〔菅原〕希望制の課外は、生徒に選択肢を与えることになり、自主性を育むことができると考える。

重点目標4 学科毎の学びの特長を活かし、課題解決能力の育成を図る

〔川堀〕達成指標が60%以上であるのに対し、自己評価は95%であり、両者にかかなりの隔りがあるのはなぜか。

〔校長〕今年度新たに設定した目標であったため予想が難しかった。来年度はこの結果をもとに再考したい。

〔菅原〕本日の校内課題研究発表会を楽しんで見させていただいた。生徒は設定した課題に対して目標を持って探究し、その結果が得意げとなる発表へと結びついていると考える。

〔鈴木秀〕生徒がいかに問題意識を持つかによって学びが違ってくる。学びに時間をかけ、解決に向かって他者とコミュニケーションを図りながら協働した結果がこの数値になっていると思う。

重点目標5 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる

〔鈴木秀〕学校評価による教職員と保護者の間におけるズレを薄めなければならない。保護者は学校の取組が見えないので、機会を捉えての情報発信が必要である。

イ 令和6年度学校運営協議会

(ア) 事業計画 (副校長)

山仰台グラウンドの使用環境について

- 〔現状〕
- ・陸上競技部、サッカー部 1・2年生計15名弱で使用
 - ・雑草により利用しづらく、管理が難しい
 - ・3～4月：練習後、トラックロープ露出を目的に1日10分程度×3週間除草
 - 6月： クラスマッチ前に全校生徒による除草
 - 9月： 考査期間の部活動停止、秋雨により雑草の成長激化
 - 10月： 事務室の配慮で草刈り、走路へ除草剤散布（経費32,000円）

〔内容〕 学校運営協議会主催による「山仰台の環境整備（草刈り）」

〔推進日程〕 令和6年5月 第1回学校運営協議会 「実施要項」提示
6月 実施

(イ) 委員 (副校長)

学校運営協議会設置要綱 第2条 3 委員は、再任されることができる。

皆様方には、引き続き委員をお願いしたい。

ただし、それぞれの組織の中で異動がある方もいるかと思われる。後任については人選し、別紙「令和6年度学校運営協議会委員」を副校長宛てにメール又はファックスで3/15（金）までに報告をお願いしたい。

なお、来年度も引き続き委員を引き受けていただける方は、別紙様式の提出は不要である。

ウ その他

特になし

(5) その他

特になし

(6) 閉会のことば (事務長)